

平成 22 (2010) 年度セタシジミ産卵前肥満状況

石崎大介・幡野真隆

1. 研究目的

産卵期直前のセタシジミの肥満度（軟体部乾燥重量/満水全重量×100）は産卵量の指標であり、資源変動の重要な要素となっている可能性がある。そこで琵琶湖北湖一円の漁場においてセタシジミの肥満度を調査した。

2. 研究方法

2010年5月11日に琵琶湖北湖のセタシジミ主要7漁場を含む17漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる貝桁網を用いて調査した。調査は毎年同じ漁業者に依頼している。漁場ごとに12個体を抽出し（採捕数が12未満の水域は全個体）、満水全重を0.1mgの単位まで測定した後、軟体部を取り出して乾燥させ、軟体部の乾燥重量を0.1mgの単位まで測定し、肥満度を計算した。また、採捕した水深と肥満度との関係を分析した。

3. 研究結果

全漁場の肥満度の平均は3.84%であり昨年度の3.66%に比べて増加した。琵琶湖の西部や北部で低く、東岸で高い傾向は昨年度と同様であった（表1）。主要漁場の平均肥満度も3.92%で2008年から徐々に増加しており、沖島南西漁場以外で増加した（図1）。なお、沖島東漁場では水草の繁茂により採捕できなかった。このように肥満度が増加していることから今後のセタシジミ資源量の増加が期待される。

一方で、採捕水深と肥満度の関係は水深が深いほど肥満度が低いという負の相関が得られた（図2）。これは水深による水温や栄養塩濃度などの違いが影響していると思われる、さらなる研究が必要である。

また、今後はセタシジミ資源量の予測を行

うために、肥満度と加入量との関係および肥満度を変動させる要因の解明が必要である。

表1 各漁場の肥満度

漁場名	個体数	肥満度(%)	水深(m)
沖島南西	12	3.86	10.9
沖島東	0	—	5.0
沖島西	12	4.09	13.9
松原	12	4.28	5.0
磯	12	4.09	9.1
長浜	12	3.87	13.4
今西	12	3.58	15.5
菖蒲	12	3.87	3.4
牧	12	3.67	8.7
新海	4	4.70	10.9
石寺	12	4.08	7.7
八坂	6	4.46	4.9
海津	12	3.55	10.5
針江	12	3.18	13.5
鴨川	12	3.68	15.2
高島	12	3.51	12.2
近江舞子	12	2.97	21.2
平均		3.84	

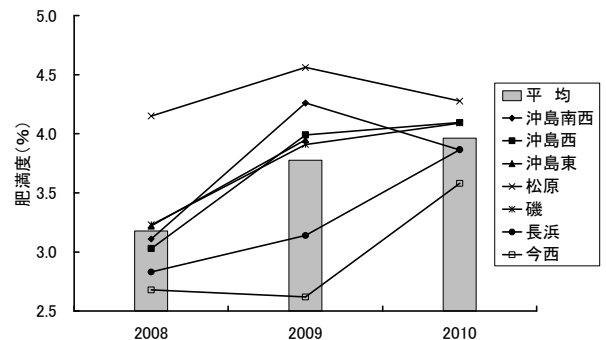


図1 主要漁場における肥満度の推移

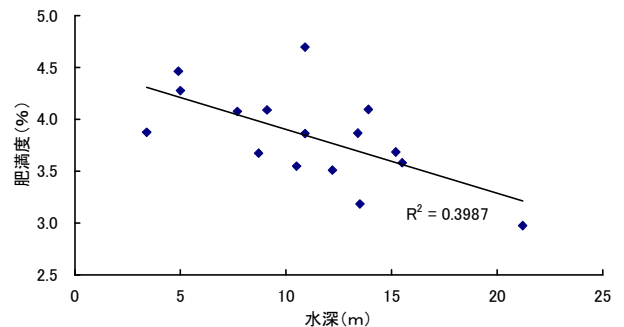


図2 水深と肥満度の関係